

| 科目名 | 多文化社会の課題 Multicultural Issues | | 担当教員 (研究室番号) | 浦野 茂 (503) | | 教員への連絡方法 (メールアドレス) | | | | | | |
|----------------------------------|---|--|-----------------|--|----------|-----------------------|-------------|-----------|----------|----|------------|---|
| 履修年次 | 3年次 前期 | 科目 区分 | 教養・基礎科目 | | 選択 区分 | 選択 | 単位数 (時間) | 2(30) | 授業 形態 | 講義 | 科目等 履修生 | 可 |
| | | | | | | | | | | | オープンクラス | 可 |
| 科目 目的 | 今日の日本には、国外から多くの人びとがさまざまな形で移動してやって来ています。これにともない、言語や文化、身体特徴などにおいて異なる人びとの間での遭遇と対立、抑圧の機会も数多く存在しており、だからこそ共存と共生の可能性を模索することは私たちにとってきわめて重要な現実的課題となっています。この課題を念頭におきながら、この授業ではさまざまな人びとの差異が織りなしてきた人間関係と問題の歴史と現状について学んでいきたいと思えます。 | | | | | | | | | | | |
| ディプロマ・ポリシー (DP) | 主要なDP | C 多様な考え方や文化的背景を持つ人々の特徴に応じて、自らの看護活動の必要性や方法を説明するためのコミュニケーション能力を有している。(技能・表現) | | | | | | | | | | |
| | 関連するDP | B 人々の生活に根ざした看護を実践するための幅広い教養と専門的知識を有している。(知識・理解) | | | | | | | | | | |
| 到達 目標 | 文化や価値観の相違と対立に起因する問題は、身近なところにも数多く存在しています。この授業ではこうした問題のいくつかを取り上げて理解を深めていくことによって、他者に対する想像力をより豊かなものにするを目標とします。 | | | | | | | | | | | |
| 成績評価方法 (基準) | 授業での報告(40%)、授業における小レポート(15%)、期末レポート(45%) | | | | | | | | | | | |
| 再試験の有無と 基準等 | 再試験あり。追加レポートの提出による。 | | | | | | | | | | | |
| 教科書 | 松尾知明『多文化共生のためのテキストブック』明石書店、2011年。 | | | | | | | | | | | |
| 参考書等 | 多文化共生キーワード事典編集委員会(編)『多文化共生キーワード事典(改訂版)』明石書店、2010年。 | | | | | | | | | | | |
| 学生の主体性を伸ばす ための教育方法と 学生への期待 | 授業は、履修者による発表とそれにもとづくディスカッションを中心に進めます。履修者には、各回の授業に先立って教科書の該当箇所を目を通してきたうえでディスカッションに積極的に参加するよう、期待しています。 | | | | | | | | | | | |
| 備考 | | | | | | | | | | | | |
| 回 | 学習項目 | | | 学習内容 | | | | 主担当 教員 | 授業 方法 | | | |
| 1回 | イントロダクション | | | 授業の進め方および主題について説明する。 | | | | 浦野 | 講義 | | | |
| 2回 | グローバリゼーションとは | | | 国の枠を超えた人とも、情報の移動の現状について理解する(教科書第1章)。 | | | | 浦野 | 講義 | | | |
| 3回 | グローバリゼーションと社会変動 | | | グローバリゼーションの結果として生じている社会変動について理解する(教科書第2章)。 | | | | 浦野 | 講義 | | | |
| 4回 | ディスカッション：グローバリゼーションと日常生活 | | | 映像視聴とディスカッションを通じ、日常生活におけるグローバリゼーションについて理解する。 | | | | 浦野 | 講義 演習 | | | |
| 5回 | 多文化共生という考え方 | | | 自文化中心主義の問題とそれに代わる考え方について理解する(教科書第3章)。 | | | | 浦野 | 講義 | | | |
| 6回 | そもそも文化とは何か | | | 文化の概念を理解したうえで、自身の文化的背景について検討する(教科書第4章)。 | | | | 浦野 | 講義 | | | |
| 7回 | 文化的差異と性差 | | | 性差を文化という視点から理解するとともに、性差をめぐる文化的差異がもたらす問題について検討する(教科書第5章)。 | | | | 浦野 | 講義 | | | |
| 8回 | 外国人として生きる | | | 日本社会における外国人をめぐる偏見について検討し、その問題について理解する(教科書第6章)。 | | | | 浦野 | 講義 | | | |
| 9回 | マイノリティとマジョリティ | | | 多文化社会における文化的マイノリティの経験する課題について理解する(教科書第7章)。 | | | | 浦野 | 講義 | | | |
| 10回 | 多文化社会の社会統合 | | | 多文化社会の社会的統合をめぐる課題を理解し、そのあるべき考え方について検討する(教科書第8章)。 | | | | 浦野 | 講義 | | | |
| 11回 | ディスカッション：現代日本で外国人として生きること | | | 日本における外国人や外国人支援者の視点から見てくる日本社会の課題について考える。 | | | | 浦野 | 講義 演習 | | | |
| 12回 | グローバリゼーションのなかの貧困問題 | | | グローバリゼーションのなかで生じている世界的分業とその問題について、理解する(教科書第10章)。 | | | | 浦野 | 講義 | | | |
| 13回 | 国際協力と開発 | | | 現在のグローバリゼーション状況のなかでの国際協力の意義と課題について理解する(教科書第13章)。 | | | | 浦野 | 講義 | | | |
| 14回 | 日本人であるとはどのようなことか | | | 過去から現代に至る日本人による「日本人」像の特徴とその問題について検討する(教科書第14章)。 | | | | 浦野 | 講義 | | | |
| 15回 | まとめ | | | 自身の生活のなかのグローバリゼーションについて、ディスカッションを通じて理解する。 | | | | 浦野 | 講義 演習 | | | |

学 習 課 題

各回の授業に先立ち、教科書の指定箇所に目を通し、関連する経験や問題をまとめておくこと。
各回の授業時間後、授業内容についての小レポートを作成・提出する。

実務経験を活かした教育の取組